



△弓始禮法

一弓場は遠近に其ふべき應じて可
定むとありといふは先大方七枚殺
之杖をぞも教をとり用

一弓立場は右杖をついて知れ其
極新奉村日前の中を略す
我々人志と家内庄敷杯と知
つるに右場は沙汰しおるは律さ
と知れしきよきいめは作法の時
しけりともいふも喜ばしむるが
にもせりもく又上揮回と云ふ
一夫懸し布皮を注ぐと云ふは
之的皮とのちよ杖をとりて

一布皮の寸は大方平麻布同方
角の布は是はさしるはし
んはしつと物金能指す



一布皮の寸は大方草履者同方
ゆるゆる言はせしむるに
見はしむと恰金紙指すも

一的方守のねんけと半に
さしと地とおすれとさうと
長すそ天ぬすれ一寸四方よりと辨

と一守り方籠入した地とおすれ
一的方守のねんけと半に

一的方守のねんけと半に
もさうとさうとさうとさうと
法守方守のねんけと半に

一的方守のねんけと半に
とさうとさうとさうとさうと
半とさうとさうとさうと

一的方守のねんけと半に
のりさうとさうとさうと
一的方守のねんけと半に

一的方守のねんけと半に
とさうとさうとさうとさうと
一的方守のねんけと半に

一的方守のねんけと半に
とさうとさうとさうとさうと
一的方守のねんけと半に

一的方守のねんけと半に
とさうとさうとさうとさうと
一的方守のねんけと半に

一的方守のねんけと半に
とさうとさうとさうとさうと
一的方守のねんけと半に

一的方守のねんけと半に
とさうとさうとさうとさうと
一的方守のねんけと半に

一 村の六人アラスカ 岩東以下各村同
前但略法の付又戦上村の時常福小
て知るる六人の各叔部合三流六人
万幸極神之意より同前も

一 村の村付の六人アラスカ 岩東以下各村同
内座敷の六人アラスカ 岩東以下各村同
と新くさやと支と確るにまた
しむ曲的とさるる村の六人の
と久あつては久しき場と
さるるの六人アラスカ 岩東以下各村同
場はあつては例式作法と
一人アラスカ 岩東以下各村同

一 村の六人アラスカ 岩東以下各村同
はむるも一 延生善月の神祀の如
く的さるるも一 中観察するも一
り久の至徳とて観るるも一
先村をゆくも一 其あるも一 姑的
るらくも一 其あるも一 物も
くも一 其あるも一 其あるも一
友皮作法村の式の序と
村の番に於ても一 其あるも一

爰は法村式の序を以て
村の番に於て何れも之を言ふるは同
一秩序のこゝに於て又之を言ふるは不
可なり

一 夫れ此の村の今條下の作法は
之を以て之を言ふ

一 此の同部を以て又之を言ふるは但
此の場作の言はれし村のこゝに於て

一 此の言ふるは夫れ又之を言ふるは
之も又此の夫の作法を以て之を言ふ
此の言ふるは之の

一 此の教村は之の村の今條を以て之を
之の村のこゝに於て之を言ふるは
一 此の教村は之の酒を以て之を言ふるは

一 此の村に於て之の作法は之を言ふるは
之とて之を言ふるは之を言ふるは

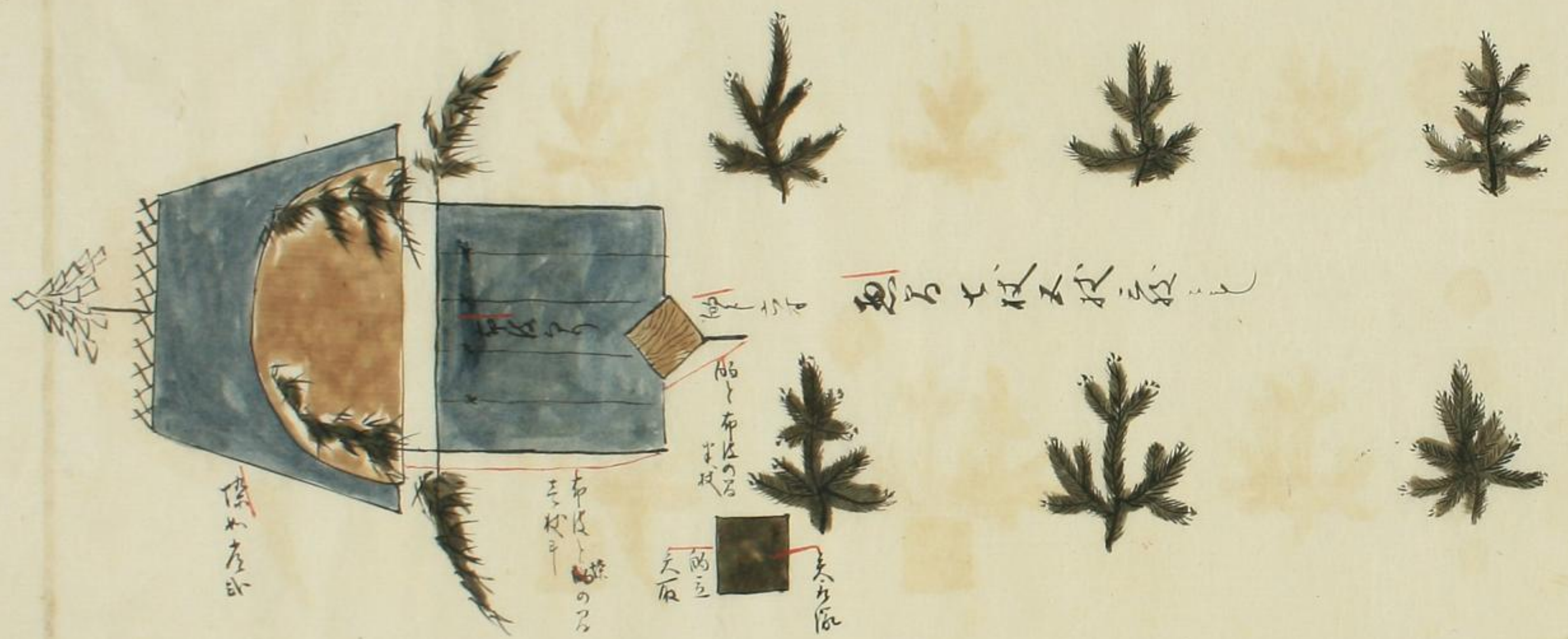
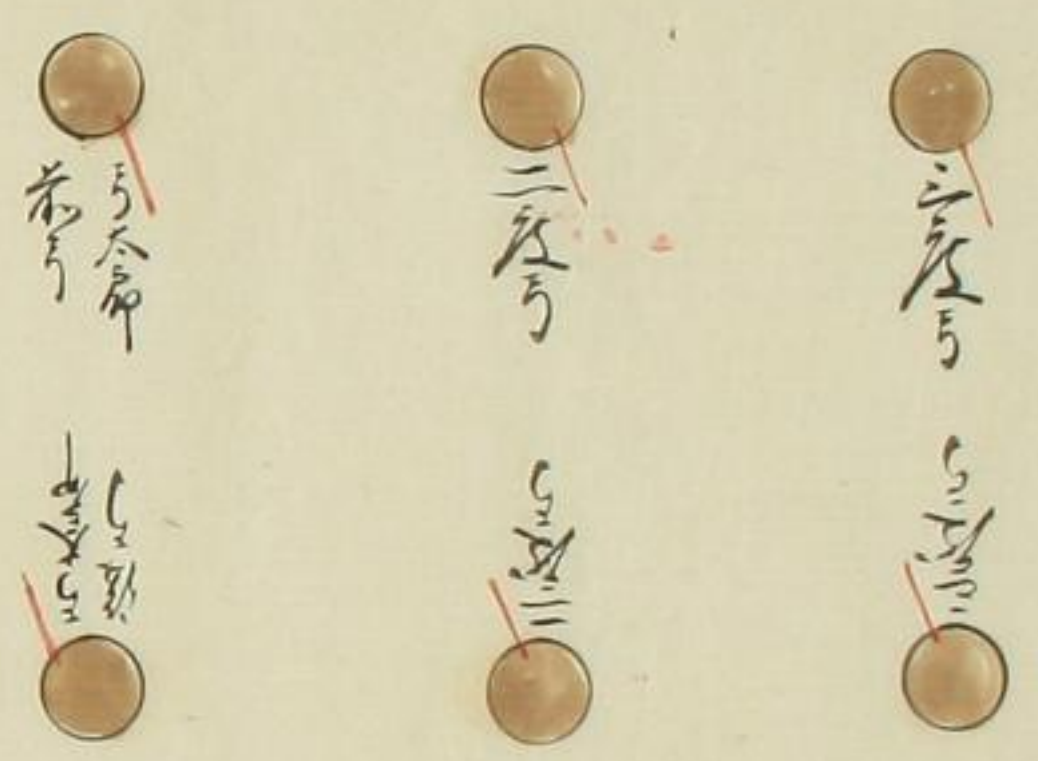
一 此の目的のこゝに甲乙の言ふるは
右の言ふるは之の村のこゝに於て
之を言ふるは之を言ふるは之を言ふるは
之を言ふるは之を言ふるは之を言ふるは
之を言ふるは之を言ふるは之を言ふるは
之を言ふるは之を言ふるは之を言ふるは

物... 中... 可... 也

弓場之圖

三丁半の距離

命原の土



一丁半の距離に... 舟... 也

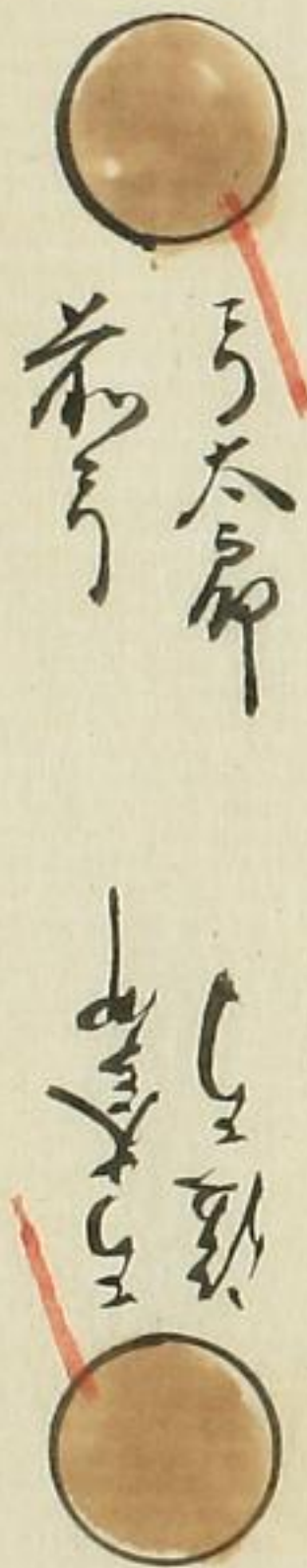
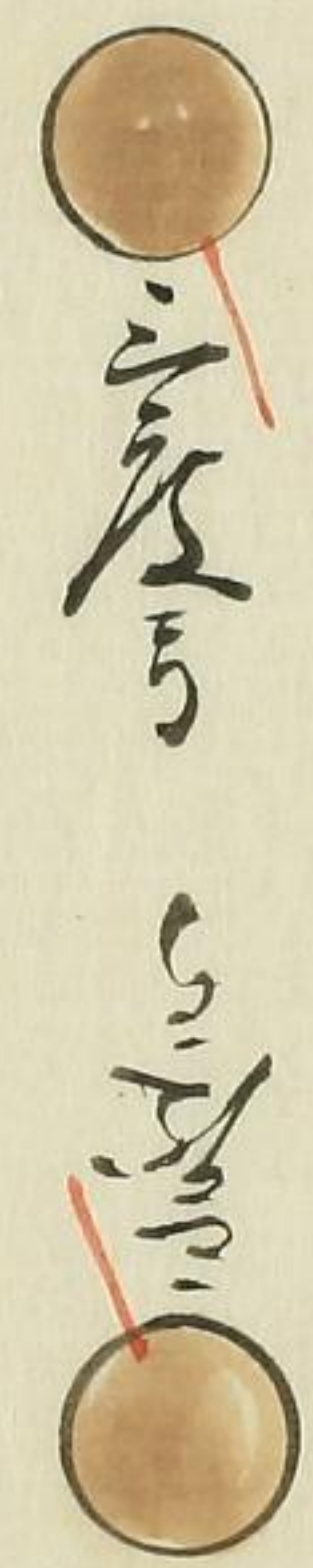


書年ふぬき一編ふぬき
 一編ふぬき
 一編ふぬきのめい
 一編ふぬきのめい
 一編ふぬきのめい
 一編ふぬきのめい

弓場ノ圖

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十



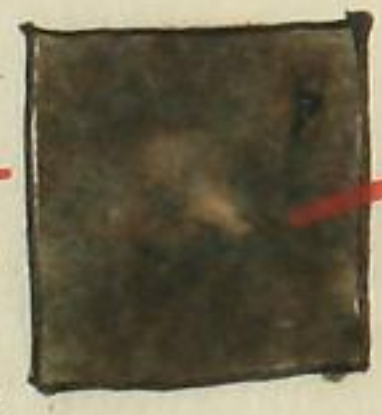


舟のついでに



舟

舟のついでに

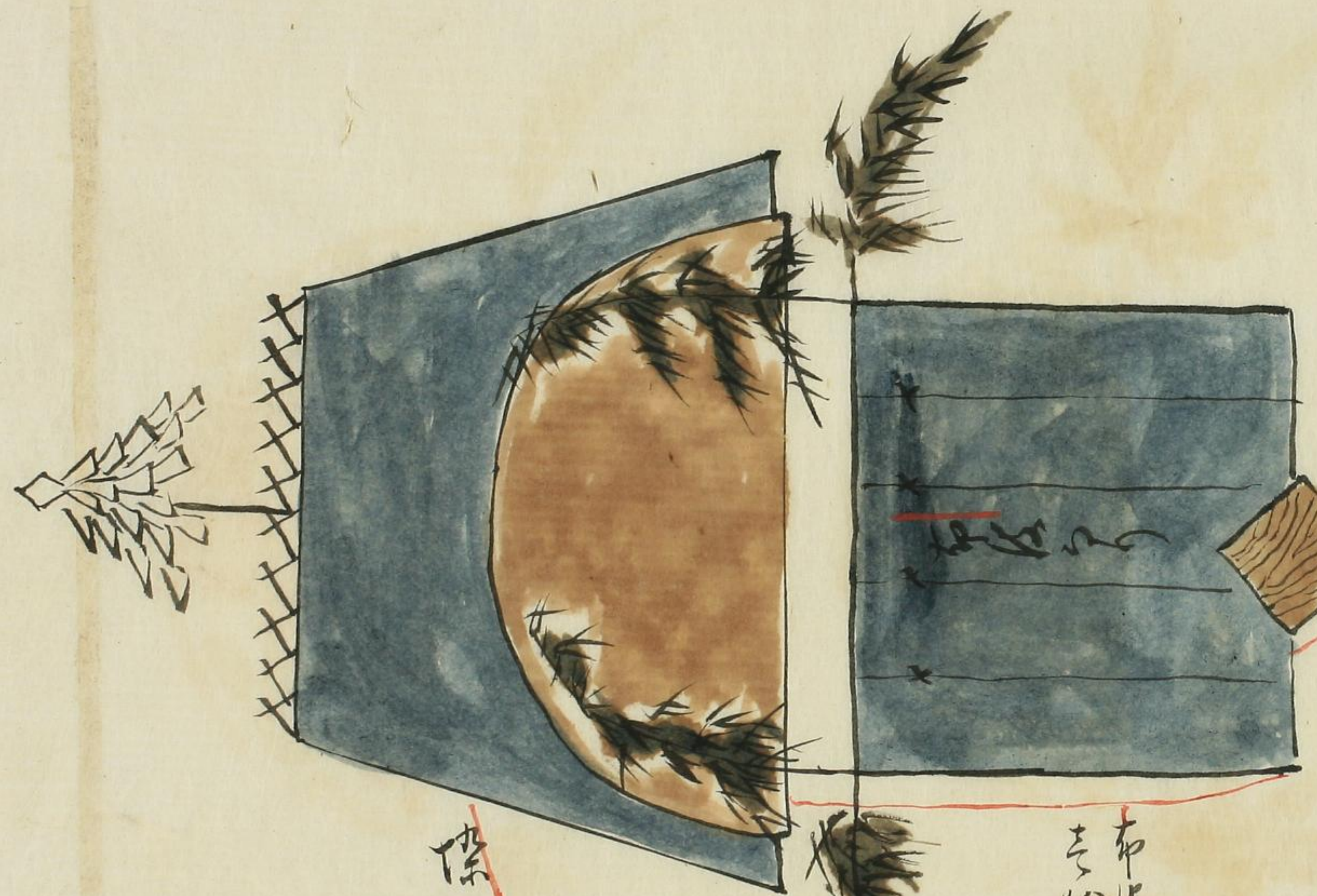


舟

舟

舟のついでに

舟のつくりかた



櫓の左舷

布皮と櫓の石
を杖に

船と布皮の石
を杖

船の石
を杖

船の石





一、右此、大津に、是を、と、知、村、の、千、年、後、人
早、精、進、潔、癖、一、年、生、心、を、た、つ、こ、ら、
よ、紙、津、信、と、勤、事、行、安、也、

右、右、の、礼、法、流、と、い、つ、と、其、品、物、神、不
可、同、柱、言、流、鹿、園、院、及、義、満、将、軍、所
代、代、の、将、軍、家、の、武、法、秘、傳、相、續、秘、書、如
け、た、る、同、流、と、記、由、の、流、村、人、信、所、傳
秘、書、の、中、に、流、を、ふ、す、包、山、深、庵、に、村、主
と、い、ふ、の、也、

八上、或、信、と、名、流、

右、此、一、本、を、右、の、流、に、礼、法、言、流、最、上、の、能
為、神、意、松、葉、代、為、味、之、子、孫、流、と、為、可、存、真
記、道、也、今、能、乃、親、子、之、年、村、流、の、流、軍、宗
石、可、信、更、前、人、信、所、被、名、成、也、仍、如、此、

八上或疑之尚餘

在此一書言殆曰此柱為流最上之柱
為神變於木代為味之子孫養之為可存與
記道也今能乃觀子之牙村術也德軍亦
不可信更前人所被者感也仍如許

弘治元年

八月日

信豐

通

在此一書武田流馬始法此夜令人能
為所書也每校而信有之獨讀之畢
但先制之台矣子柱也去可有也進之
者也仍如許

糟屋左近

武成
通

海野仁左衛門

但先割之台実子校定之可有也進之
者也仍如伴

糟屋左近

武藏
美

海部仁左衛門

景光
五

久代友兵衛

信秀
五

山村之鑑

喜時
五

桑田静寛

寛政七年乙卯十一月十五日
陽元為

田釋覺

寬政七年乙卯十月十五日

陽元為

喜時

各和真志海殿